

インフラDX大賞で大臣賞

金杉建設

「現場での取り組みのほか、ICT施工などの普及推進の活動も評価された。自社だけではなく、業界全体に普及を進めるお手伝いをしたいという気持ちが一層強くなった」。



吉川社長(左)と小俣室長

2022年度インフラDX大賞の国土交通大臣賞を受賞した金杉建設(埼玉県春日部市)の吉川祐介社長はこう語る。受賞工事で小規模土工事におけるICT施工の有効性を確認したことを踏まえ、「3次元設計データ作成の内製化は重要だ」と強調する。

小規模ICTの有効性確認

Construction大賞優秀賞を受賞するなど、地域建設業におけるi-Constructionプランナーの一角として走り続けてきた。受賞工事は、埼玉県発注の「総A除)5021社資交付金(街路)整備工事(柳之宮橋迂回路整備工事その1)」。綾瀬川に架かる柳之宮橋(八潮市)の架け替えに向け迂回

金杉建設は、17年度に第1回i-Construction大賞を受賞した同社は、自社保有している後付

けマシンガイダンス(MG)システムを標準機に取り付けてICT土工を実施した。また、各種埋設物の占有管理者から埋設図を入手して、施工範囲外の埋設物であっても全て3次元モデル化した。同社の小俣陽平工事管理本部長・i-Construction推進室室長は、3次元モデル化で埋設物

3次元設計データ内製化を

をワンマップ表示したことで「従来なら工事を進めてから分かる支障箇所も事前に発見できた。全体的な打ち合わせや、地域住民への説明にも有効だった」と話す。吉川社長も「問題点を可視化し、トラブルを事前に防ぎ、現場がスムーズに進んだ」と手応えを口にする。

排水構造物掘え付けに伴う土工量が300立方メートル程度の小規模工事

で、0.25立方メートル級バックホウで床掘りを実施した。排水構造物の掘え付けで丁張りレス化を実現し、市街地での通行止め日数を大幅に削減した。小俣室長は「直線部分に比べて3、4倍の丁張りが必要になる曲線部分で特に効果を発揮した。協力企業にとっても手元作業員を減らせることは大きい」と説明する。

吉川社長は「効率を求め過ぎるのではなく、失敗例から学び、知識を蓄積することで、従来工法とICT要がある」と話す。

吉川社長は「一緒にICTの普及促進に取り組んできた埼玉県と同時受賞できてうれしい。中小建設業への普及に向け、3次元設計データ作成の内製化に関する重要性を理解してもらい、人員配置や投資をする必要がある」と話す。

